

# 1 栄区の特性

## (1) 人口

栄区の人口は、昭和30年代後半から50年代前半にかけて、丘陵部に大規模な宅地開発が行われ、急増しました。昭和60年代以降は微増、平成10年代からは、約12万人でほぼ横ばいが続きました。平成20年を境に微減傾向となり、現在の人口は122,304人（平成26年10月時点・対前年比0.79%減）です。

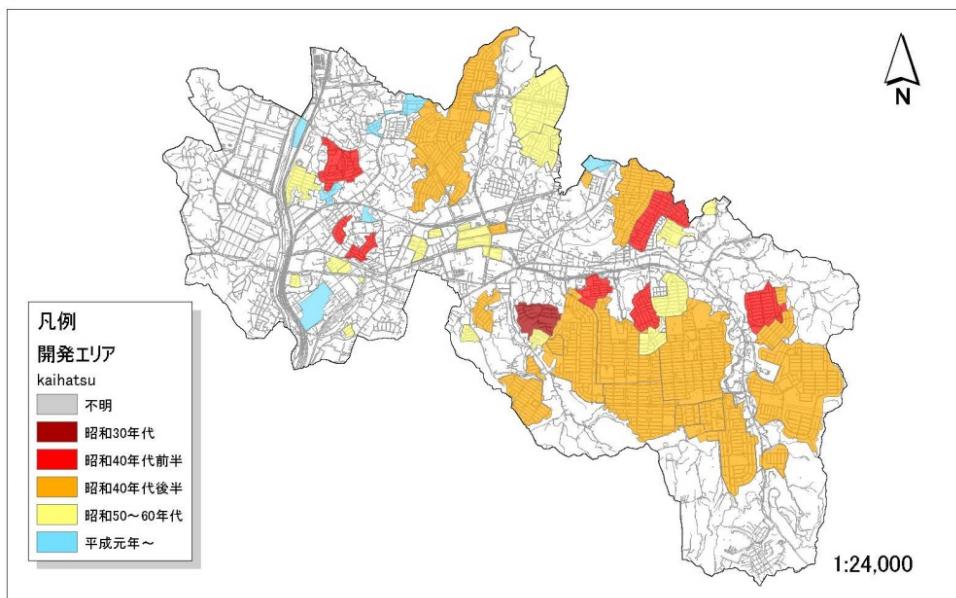
世帯数は、約5万世帯で過去5年間ほぼ横ばい傾向が続いている。1世帯当たりの人員は、過去5年間で2.48人から2.4人に減少しています。（平成26年10月時点）

将来人口推計では、今後もこの傾向が続き、予測値ではありますが、平成37年（2025年）には117,700人、平成47年（2035年）には、106,200人まで減少すると予想されています。

◇◇ 図1 栄区の人口と世帯数の推移



◇◇ 図2 栄区における住宅開発の動向



◇◇ 図3 栄区の将来人口推計

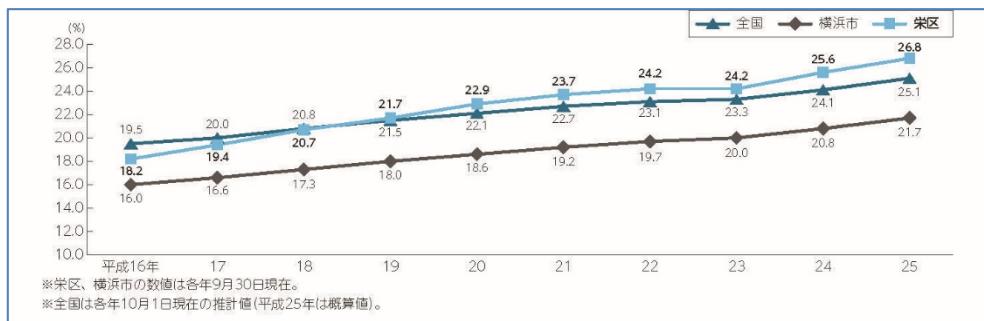


## (2) 高齢化

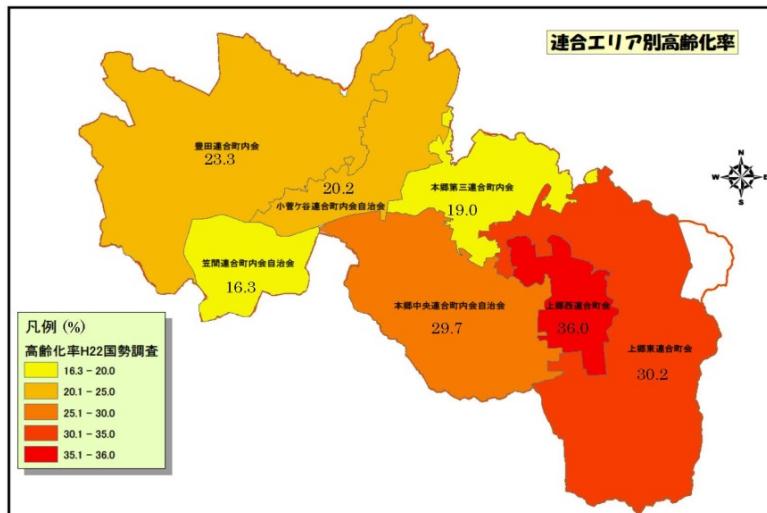
高齢化率は、27.5%（平成26年1月時点）で、全国の高齢化率を上回っています。特に、桂台、犬山、庄戸など昭和40～50年代に大規模住宅開発された地域において、高齢化率が高くなっています。なお、要介護認定率は、栄区14.19%と市平均16.81%と比べると低く、健康なシニアが多いと言えます。

将来推計では、平成37年（2025年）には31.5%と予想され、平成22年（2010年）と比較すると後期高齢者の割合は2.2倍にもなります。

◇◇ 図4 栄区の高齢化率の推移



◇◇ 図5 栄区連合エリア別高齢化率



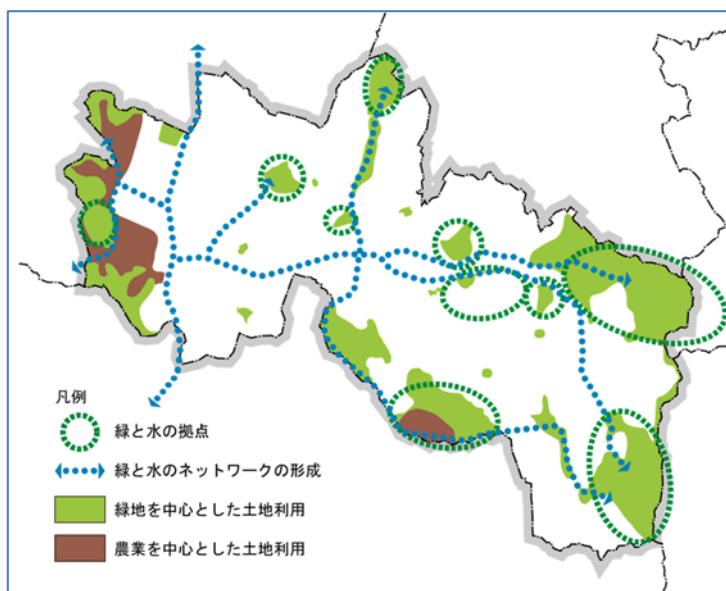
### (3) 豊かな自然環境

堺区は、丘陵地を中心に市民の森やつながりの森など比較的規模が大きい豊かな樹林地があります。緑被率としては41.8%（平成21年度調査）と高い値となっています。

これらの樹林地は、ハイキング・散策などのレクリエーションや環境学習のフィールドとして利用されています。特に、いたち川遊歩道を経由して鎌倉へのルートは、首都圏でも人気のハイキングルートとなっています。

区内を東西に流れるいたち川や南北につながる柏尾川は、自然豊かな空間であり、河岸のプロムナードは、ウォーキングやバードウォッチングなどで楽しめています。

◇◇ 図6 水と緑のネットワーク図



### (4) 道路・交通

都市計画道路の整備率は、40.7%（平成26年3月時点）と低く、道路整備は遅れています。そのため、環状4号線の笠間交差点、神奈中車庫前交差点などでの慢性的な交通渋滞など生じています。

現在、首都圏中央連絡自動車道である横浜環状南線・横浜湘南道路、その関連街路であり、桂台・犬山地区などと本郷台をつなぐ上郷公田線の整備を進めています。また、環状4号線の整備(公田～本郷小学校)及び環状3号線の4車線化など整備を進めています。

区内のバス路線網は、港南台駅、戸塚駅、大船駅、本郷台駅といった鉄道駅へのフィーダーサービスとして、ネットワークが形成されています。その中で、本郷台駅へのアクセスが弱くなっています。また、高齢化・人口減少からバス利用者の低下により、バス路線の廃線もあります。

## (5) セーフコミュニティ

栄区は自治会町内会の加入率が83.9%と高く、レクリエーションから福祉など地域活動も活発で、結束力もあり地域コミュニティの基盤となっています。また、古くからの生活圏などのエリアをもとに、自治会町内会から構成された地区連合町内会が7つあり、連合としての活動も熱心です。

こうした地域コミュニティが主体となった安全・安心の取組が評価され、平成25年10月に、WHO協働センターから「国際セーフコミュニティ都市」として認証されました。我が国で7番目、行政区としては初めてです。

## (6) 区民特性

横浜市民意識調査（平成25年度）では、多くの栄区民は、暮らしやすいと感じています。特に、静か、緑や自然、まちなみ、近所づきあいへは満足が高くなっています。一方で、交通利便性や買い物、飲食、遊びなどへの満足は低くなっています。

栄区民意識調査（平成22年度）によると、栄区に「住み続けたいと考えている人」は約8割を占めています。一方、「住み続けたくないと考えている人」の理由として、交通の不便さ、スーパーや商店の不足による買い物の不便さがあげられています。

◇◇ 表1 暮らしの満足度（平成25年度横浜市民意識調査）

項目	栄区	横浜市平均	栄区の順位(18区中)
暮らしやすい	85.5 %	79.5 %	4位
静けさ	84.3 %	73.6 %	2位
緑・オーブンスペース	86.7 %	64.9 %	1位
まちなみ	72.3 %	52.7 %	3位
近所づきあい	55.4 %	43.8 %	1位
交通利便	51.8 %	61.4 %	14位
買い物	49.4 %	61.8 %	16位
遊び・余暇	22.9 %	34.9 %	17位

## (7) 本郷台のまちづくりの検討に向けて

現在の栄区民は身近にある自然の豊かさや地域のつながりから暮らしやすさに満足を感じています。しかし、高齢化が進む状況の中、買い物などの日常生活の不便さから不安も感じています。これからは、自然環境や地域コミュニティを生かしながら、こうした住宅地区の利便性の向上と買い物などの拠点づくりが課題であることがわかります。

本郷台のまちづくりでは、住宅地区との関わりの中で、拠点性をどう発揮していくかを検討していく必要があります。